

通

文

全215冊
紹介

B u n g a k u - R e p o r t . c o m

〒116-0012
東京都荒川区東尾久8-41-10 樫の木学園3階
電話03-5939-9027 FAX03-5939-9094
info@bungaku-report.com

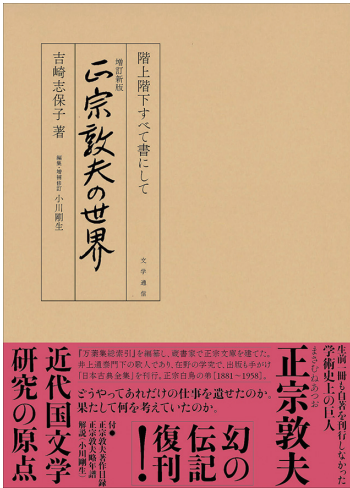


2026.5

出版
目録

信

学



増訂新版 正宗敦夫の世界

階上階下すべて書にして
吉崎志保子著・小川剛生 [編集・増補修訂]

ISBN978-4-86766-126-0 A5判・上製函入・394頁 定価：本体 4,800円（税別）

近代国文学研究の裾野はこうして広がり、高みに達した。その原点がわかる書。学術史上の巨人、正宗敦夫（まさむねあつお。正宗白鳥の弟 [1881～1958]）の幻の伝記、復刊。
在野の学究・正宗敦夫は、地方で国史・国文に親しみ、作歌に励んだ。万葉集に惹かれひとりてこれを繙き『万葉集総索引』を完成させる。書物の閲覧の不便に抗い学問を続けるなか、文献資料の複製・影印・翻刻など出版も手がけ「日本古典全集」（全6期、266冊）を刊行する。果たしてどうやってこれだけの仕事を遺せたのだろうか。何のために取り組んだのだろうか。
本書から見えてくるのは、敦夫の利他の精神である。敦夫は自身の学問上の発見を世に問うこともなかった。近代国文学研究の原点を見つめ直し、今に活かすために必携の1冊。編集・増補修訂、小川剛生（慶應義塾大学文学部教授）。



歌う日本語

歌謡曲の言語と文学
田窪行則編

ISBN978-4-86766-123-9 A5判・並製・320頁 定価：本体 2,400円（税別）

歌謡曲・J-POPの言語学入門！歌謡曲やJ-POPは、何をどうすれば、どこまでわかるようになるのか。ことばの楽しみ方から学んでいく書。
本書は、歌謡曲やJ-POPの歌詞の分析を通じて、日本語の性質、文学的背景などの知識を身に付けることを目標にします。また、そのようにして身に着けた日本語に関する分析能力、文学的知識をもとに、日頃みなさんが聞いている歌の理解を深められるようにします。第1部「歌謡曲の言語学」第2部「歌謡曲の文学・音楽史」第3部「分析を応用してみよう」の全3部で構成。
執筆は、有田節子、大田垣仁、岡島昭浩、岡本光加里、尾谷昌則、柏野和佳子、金水 敏、小林雄一郎、近藤泰弘、定延利之、志波彩子、田窪行則、田村早苗、中村桃子、平田 秀、藤本真理子、細馬宏通、モクタリ明子、山崎 誠、輪島裕介、渡部泰明の全21名。



新解明・徳川家康の時代

平野明夫編

ISBN978-4-86766-121-5 A5判・上製・288頁 定価：本体 7,500円（税別）

家康の時代をどう解明していくか。家康の基盤である三河の状況や、家康の影響を理解するため、家康の周囲・周縁の問題から読み解く研究書。
収録論文は、大きく①三河守護の任免を扱ったもの、②「家忠日記」の周辺を考察したもの、③南奥羽の動静のなかで家康の動向を捉えたもの、④関ヶ原合戦時およびその後の影響を検討したもの、⑤画像から人物像を抽出したもの5つで構成した。

今後の徳川家康をはじめとした三河中世史研究に益する全10編。執筆は、山下真理子、齋藤直巳、大鳥聖子、菅原義勝、佐藤貴浩、角 明浩、松永英也、新保 稔、井口信久、平野明夫。



創作と研究の対話

大学教育の現場から 武蔵野大学文学部創設60周年記念シンポジウムの記録
武蔵野大学文学部日本文学文化学科編

ISBN978-4-86766-122-2 A5判・並製・120頁 定価：本体 1,000円（税別）

文学は創作も研究も区別のない一体のものであるはずだ——。専門性の名の下に細分化が進み、それぞれをつなぐ回路が見えなくなった今、創作と研究を、創作と創作を、研究と研究をつなぐ回路を「対話」の形で探る。創設60周年を記念するシンポジウム「創作と研究の対話—大学教育の現場から」(2025年8月1日開催)の記録。
本シンポジウムでは、歌人として著名な穂村弘氏をはじめ、町田康氏、川村裕子氏、大島武宙（寺井龍哉）の学外・学内の第一線で活躍する作家・研究者を迎え、講演やディスカッションを通して武蔵野大学文学部日本文学文化学科創設以来の伝統である「創作」と「研究」の融合的な教育実践に焦点を当て、文学の未来について考える契機とした。これからの大学での文学教育を考えるための一冊。



鯰絵と歌川派の浮世絵

安政江戸地震と幕末の出版界

石隈聡美

ISBN978-4-86766-125-3 A5判・上製・304頁(付・カラー口絵) 定価:本体 7,500円(税別)

生まれるべくして生まれた、見ても読んでも楽しい作品群、鯰絵。当時の錦絵出版界を牽引していた歌川派。歌川派の絵師の時事的錦絵作品群のなかに鯰絵を位置づけると、何がわかるのか。美術史の中に置き直し、検討し直した、初めての総合的研究。鯰絵とはどのような作品群で、どのような背景があったのか。第一章では絵師・板元・法令の三つの視点から当時の出版背景を解き明かし、第二章で当時の資料から鯰絵の定義について検討する。第三章では、201点の鯰絵について基本データを表に示し、そこからモチーフ分析を行う。第四章では、鯰絵と歌舞伎と題し、鯰絵中に描かれた歌舞伎の演目について読み解き、第五章では、鯰絵以前、鯰絵流行期間中、鯰絵以後と時期を分け、鯰絵と錦絵の影響関係を見ていき、鯰絵がその後の浮世絵出版に与えた影響を考察する。



文学散歩の研究

岡野裕行

ISBN978-4-86766-124-6 四六判・並製・342頁 定価:本体 2,400円(税別)

文学を主題としてまちをめぐり歩く、文学散歩。私たちは文学散歩で何を見に行くのだろうか。文学散歩は現在、各地域の文学愛好団体や郷土史研究会などが市民向けイベントとして開催したり、各自治体の公共図書館が文学を主題としてまちをめぐり歩くワークショップとして企画したり、あるいは小中高等学校の国語科の授業や学校図書館や、大学教育の一環としても行われている。これらはどう生まれ、どう変貌してきたのか。また、これからどうなっていくのか。初めての総合的研究。【目次】第1章 日本における「文学散歩」の発達史／第2章 図書館サービスとしての「文学散歩」／第3章 「文学散歩」を拡張する人々／第4章 日本郷土文藝叢書刊行会と復刻本出版の試み／第5章 「文学散歩」という着想／第6章 言葉を残す「文学散歩」／巻末図表 野田宇太郎と図書館および文学館による「文学散歩本」の出版史と文学散歩関連の出来事ほか



歌舞伎 研究と批評 70

特集・『東海道四谷怪談』の二百年

歌舞伎学会編

ISBN978-4-86766-120-8 A5判・並製・186頁 定価:本体 2,330円(税別)

歌舞伎学会が発行する学会誌『歌舞伎 研究と批評』(年1冊刊行)の第70号。本号の特集は『東海道四谷怪談』の二百年。四代目鶴屋南北の『東海道四谷怪談』が一八二五年(文政八年)に江戸中村座で初演されて二百年にあたることを期し、組みました。巻頭は、花組芝居の加納幸和、木ノ下歌舞伎の木ノ下裕一、児玉竜一による座談会。論文に、『東海道四谷怪談』蛇山庵室・夢の場の素材(高橋則子)、四谷怪談享受史一文政から令和まで(中村 恵)を掲載。ほか、投稿論文(戸塚史織、光延真哉)、演劇年間評(犬丸 治、大矢芳弘、林 公子、田草川みずき)、佐藤かつらによる令和六年度歌舞伎学会秋季大会印象記、追悼として、飽くなき「芸人魂」一追悼・吉田簗助(後藤静夫)、遅れて来た名手一追悼・柳田豊一(上村以和於)、思い出の九世市川團蔵(神山 彰)を掲載。



飛行機をめぐるコミュニケーション

だれにとっても心地よい公共スペースを考える

北村伊都子・広瀬浩二郎・相良啓子・綾屋紗月・菊澤律子

ISBN978-4-86766-103-1 A5判・並製・96頁 定価:本体 1,300円(税別)

だれにとっても心地よい公共スペースとは、どういうものなのでしょうか。例えば空港。デンマーク・コペンハーゲン空港は、空港のアナウンスがほとんどないそうです。これは聴覚過敏な方にとっては静寂でいいものだと思いますが、全盲の方にとっては、耳から得られる情報がない場所ということになり、最低限必要な情報が得られないということになります。誰かにとっての利益は、誰かにとっての不利益です。こういったことを踏まえて、世の中は全体の仕組みを考える必要があります。本書は「いろいろな特性をもつ方と『飛行機に乗る』こと」をテーマに話が進みます。誰もが自分らしくいられる心地よい公共スペースは、何を目標して作っていけばいいのでしょうか。新しい学問分野「コミュニケーション共生科学」がつくるシリーズ[コミュニケーションの未来を創る]の3巻。シリーズ詳細はこちら <https://bungaku-report.com/language-science.html>



異文化交流文学史

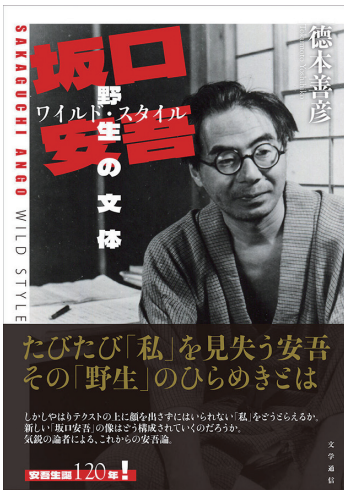
16世紀前後の日本と東アジア

小峯和明編

ISBN978-4-86766-117-8 A5判・上製・688頁 定価：本体13,000円（税別）

文学において〈異、なるもの〉とは何か、〈異、なるもの〉とどう出会い、葛藤し克服していったのか、あるいはなしえなかったのか。異文化交流文学論のあらたな起点となる書。多彩で問題提起に満ちた論考の集合体。全体は、I 文学と歴史のあいだ、II 外交と学芸と文学、III 交易、交通の文学、IV 宗教の文学、V 戦争の文学の五部に分かれる。

執筆は、阿部龍一、荒木浩、伊藤聡、李暁源、位田絵美、宇野瑞木、大木康、大西和彦、岡美穂子、金英順、木村淳也、金文京、グエン・ティ・オワイン、河野貴美子、高陽、小林ふみ子、小峯和明、崔英花、佐伯真一、佐野愛子、鈴木彰、関周一、染谷智幸、高津孝、千本英史、趙恩鶴、陳小法、ツベタナ・クリステワ、出口久徳、徳竹由明、原克昭、ハルオ・シラネ、樋口大祐、平沢卓也、ファム・レ・ワイ、松居竜五、松浦史明、松本真輔、水口幹記、宮腰直人、目黒将史、屋良健一郎、横山學。



坂口安吾・野生の文体

[ワイルド・スタイル]

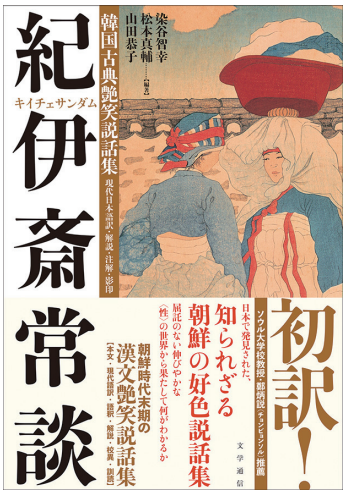
徳本善彦

ISBN978-4-86766-116-1 A5判・上製・288頁 定価：本体5,000円（税別）

たびたび「私」を見失う安吾。その「野生」のひらめきとは。「野性の文体」の「文体」とは、本書であつた小説が様々なスタイルで書かれていることをあらわしている。安吾が様々な文体を模索して小説を書いたことと、無頼派の像としての、原稿用紙の散乱した部屋の写真などと結びつけて語られる「坂口安吾」との間に、果たして乖離はないのだろうか。本書は、安吾のテキストで表現される文体のゆたかさ、煩雑さ、矛盾、混沌とした様相により多くの価値を見いだす。

全体を、序章—イントロダクション、第一部 様々な文体—分裂が結局総合を意味するのだ、第二部 歴史を語る—せめぎ合う歴史と現実、第三部 女性を／が語る（立ち上がる）—男性作家、安吾の限界、終章—「坂口安吾」とは誰なのか、で構成。

これからの新しい「坂口安吾」の像のために。気鋭の論者による、これからの安吾論の登場。



韓国古典艶笑説話集『紀伊齋常談』

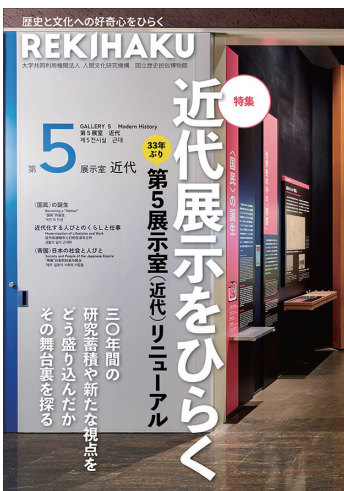
現代日本語訳・解説・注解・影印

染谷智幸・松本真輔・山田恭子 [編]

ISBN978-4-86766-118-5 A5判・上製・292頁 定価：本体5,000円（税別）

日本で発見された、知られざる朝鮮の好色説話集。屈託のない伸びやかな〈性〉の世界から、果たして何がわかるか。朝鮮時代末期に漢文によって書かれた編著者未詳の艶笑説話集、『紀伊齋常談（キイチェサンダム）』。

明るい性の世界をふんだんに描くとともに、他の韓国古典ではなかなか取り上げられない、朝鮮時代の、常民や賤人、と当時呼ばれた農民・商工民・被差別民の風俗・生活・文化をリアルに浮かび上がらせる。2008年、日本の福岡で発見され、2010年7月に韓国・ソウル大学校・奎章閣に発見者により寄贈されたこの本の魅力を、本文はもちろんのこと、現代日本語訳、語釈、解説、校異、訓読、で紹介。コラムでは、朝鮮の古典を読む基礎知識として、朝鮮時代の身分、家族とその意識、科挙、寡婦をめぐる問題、日本笑話との比較、商人、仏教と女性など、多方面から理解を助けるよう配慮した。



REKIHAKU 特集・近代展示をひらく

第5展示室（近代）リニューアル

国立歴史民俗博物館・佐川享平・工藤航平編（国立歴史民俗博物館発行）

ISBN978-4-86766-119-2 A5判・並製・112頁 定価：本体1,091円（税別）

国立歴史民俗博物館は、2026（令和8）年3月17日、総合展示の第5室（第5展示室）「近代」が、第6室「現代」の一部とともにリニューアルしました。約30年ぶりのリニューアルでは、10年以上をかけて、何を主題として展示を構成するのか、どのような人びとや事象を対象とするのか、それをいかなる資料によって示すことができるのか、近代という時代の特徴をどのようにとらえるべきなのか、検討を重ねてきました。

ここ30年あまりの歴史研究の蓄積や新たな視点はどう盛り込まれ、展示されたのか。その考え方の舞台裏をあまところなく伝えます。

近代史の展示をどう考えるのか。何をどう伝えていくのか。さまざまなフックが内在した刺激的な特集です。



君につながる古典教室

佐藤 透

ISBN978-4-86766-113-0 A5判・並製・248頁 定価：本体2,200円（税別）

私たちと古典の世界は、どのようにつながっているのだろう。古典をもっと身近に感じられるよう、今を生きる私たちの興味・関心とつなげて読む、古典文学入門。学校風に各テーマを時間割に組み込んで進めます。コミュニケーションや季節のうつろい、スポーツや旅行など、現代を生きる私たちと古典文学との「架け橋」をつなげ、驚きや発見の体験へとつながります。「ことば」「遊び」「日常」「季節」「人生」「旅」「動物」「自然」「人物紹介」の9つのテーマに分かれているので、面白そうだったページから自由に開いて楽しめます。各授業の合間の休み時間として、『万葉集』・『古今和歌集』・『竹取物語』・『枕草子』・『源氏物語』・『更級日記』・『堤中納言物語』・『今昔物語集』・『宇治拾遺物語』・『御伽草子』といった代表的な古典文学作品を紹介するコーナーも用意しました。中学生から一般の方までお読みいただけます。



震災演劇を未来につなぐ

<3.11>をめぐる表現の記録／記憶

後藤隆基

ISBN978-4-86766-114-7 四六判・並製・352頁 定価：本体3,600円（税別）

東日本大震災はいかに演劇で表現されてきたのか。2011年から2013年まで、震災発生からの3年間は、演劇にとってどのような時間で、そこで生み出された演劇は何を表現し、それはいかなる営みだったか。社会にとって演劇はどのような役割を担いえたのか。研究や批評は、それら表現をどのように捉えてきたのか。

演劇という窓から世界を覗き見て、時に身を乗り出して、そこから出て行こうとしながら、思索を止めないようにしてきた著者による、震災演劇論。三条会、劇団四季、井上ひさし、青年劇場、福島の高校生たちの演劇を手がかりに、個別の記憶とさまざまな記録とのあいだを全8章で論じていく。演劇を愛するすべての人に。付録として「震災関連演劇上演年譜稿——2011.3.11-2013.12.31」、「上演台本：福島県立いわき総合高校総合学科第十五期生アトリエ公演『失われた時を与えて』」収録。



共古・山中笑の忘れ残りの記

キリスト教と民俗学のあわいを生きる

目時美穂

ISBN978-4-86766-115-4 四六判・並製・368頁 定価：本体2,700円（税別）

明治最初期のキリスト教伝道者にして、民俗学の先駆者でもあった山中共古（やまなか・きょうこ）、本名笑（えむ）。山中は果たしていかなる人物だったのか。生涯にわたってキリスト教を各地で布教するかたわら、その土地の文化や伝承、民衆の生活を熱心に拾い集めた。信仰と趣味に全力を注ぎ、その活動は、柳田国男から「学問と人間愛との奥ゆかしい結合」と評価された。四半世紀日記のように書き続けた著名な「共古日録（きょうこにちろく）」と「続共古日録（ぞくきょうこにちろく）」には日付がなく時系列で話題が提供されるわけでもない。「数十年前の思い出が書かれたかと思えば、つぎは数日前に採取した好古の情報だったりする」。幕末から昭和の初めまでを生き抜いた謎と矛盾多きその人生を、膨大な資料を博捜し、浮かび上がらせる唯一無二の評伝。山中はどう生きることを願い、何を体験し、何を感じていたのだろうか。図版多数掲載。



ここまでわかった京都の歴史

地方史研究協議会編

ISBN978-4-86766-112-3 新書判・並製・272頁 定価：本体1,650円（税別）

これまで「あまり」もしくは「ほとんど」ふれられてこなかった「京都の歴史」を、京都研究の第一線にたって活躍する著者たちによって、縦横無尽に語り尽くします。第1部「ガイドブックに載らない歴史を求めて」では古文書を繙くことで初めて見えてくる歴史を明らかにします。第2部「失われた空間を復元する」では公家たちの邸宅、城郭、宗教施設に焦点を当てて探求。第3部「祭礼をまなぐ」はあまた継承される京の祭礼のなかで、王城守護の社、町衆が誇る祇園会、そして練供養の行事に着目。第4部「信仰と美のかたちを読みほどく」では、仏教美術や立花を取り上げます。第5部「史料を徹底解説する」では公家や古社寺に伝わる古文書から村々に残る古文書まで、さまざまな史料の読みで歴史の見方が転換していく醍醐味を堪能できます。第6部「共生のあり方を探る」では、被差別身分や身体障害者など、歴史の表舞台では語られにくかった人々に注目し、その生と社会のありようを考えます。



なぜ古典を学ぶのか

山藤夏郎

ISBN978-4-86766-100-0 A5判・上製・584頁 定価：本体12,500円（税別）

「私たち」の古典は消失し、ただ「私」の古典だけが残る——そしてそのような「個人」化が進めば進むほど、今度は古典の価値それ自体を審問にかけられる声がかんたんに、そして強く「共鳴」し始めることになるのである——「古典？そんなものいったい何の役に立つんですか？」と。本書はこの素朴な問いに対し、古典に潜見できない《根源》を問うことから応答する。古典を学ぶ意義があるのか／ないのかという論点に拙速に答えるのではなく、その問いをいったん留保し、古典を学ぶ意義が《見えない》という現象それ自体に注意を向けるところから議論を始める。対象は、前近代東アジア世界において産出された諸々のテキスト群である。なぜそれらは学ばれるべきものとされてきたのか。古典を死んだ書物にしないために、私たちは古典にどう向き合ってゆけばよいのか。私たちは自らを縛っている言語と格闘することを決してやめてはならない。根源的問題はいかに思考されるべきなのかを考える、思索の書。



「もののあはれ」の訳し方

翻訳からたどる古典文学

大野ロベルト

ISBN978-4-86766-099-7 四六判・並製・356頁 定価：本体2,300円（税別）

千年前のことばをもっと自由に読み、操るための、新しい古典文学入門。「もののあはれ」のいわば「言い出しっぺ」である貫之にとっても、「あはれ」とは何となく「あはれ」としか言いようのないものであった!? 言葉について突き詰めようとすると、私たちはしばしば行き止まりにぶつかってしまう。抽象度の高い言葉はなおさら難しい。その時に補助線として、日本語に対する理解を、英語で深めようとしてみたらどうだろう。歴代の翻訳者たちによる「もののあはれ」の解釈を導入に、俳句、和歌、『伊勢物語』、『土佐日記』、『枕草子』、『徒然草』、『方丈記』、『無名草子』を取り上げ、日本語や日本文学の特徴について考える。まず自分ならどう翻訳するか考えてみるころからはじめよう。



やさしい社会をみんなで作るために

コミュニケーション共生科学への誘い

菊澤律子・小磯花絵・朝日祥之

ISBN978-4-86766-101-7 A5判・並製・96頁 定価：本体1,300円（税別）

現在の社会では、言語だけではなく、さまざまな特性によりコミュニケーションがとりづらい人たちがいます。みんながストレスなく生活してだけでなく、すべてのひとに力を発揮してもらえる社会にするために、いまどんな課題があり、それをどうやって解決していけばよいのでしょうか？ それを考えるのが新しい学問分野「コミュニケーション共生科学」です。本書は、現代の社会とコミュニケーションの課題を考え、そもそも「コミュニケーション」とは？という疑問に答えつつ、「コミュニケーション共生科学」とはなにかを紹介。私たちの日常にある言語やコミュニケーションに目を向け、さまざまな人のコミュニケーションの共生が実現していく道りを考えていきます。新しい学問分野「コミュニケーション共生科学」がつくるシリーズ[コミュニケーションの未来を創る]の1巻。シリーズ詳細はこちら <https://bungaku-report.com/language-science.html>



日本の識字率はほんとうに高いのか？

「当たり前」を問い直すために

野山広・朝日祥之・横山詔一・竹本直也

ISBN978-4-86766-102-4 A5判・並製・96頁 定価：本体1,300円（税別）

日本人の識字率は世界トップレベル？「日本人は読み書きができる民族」という自己認識は、実は1948年、戦後間もない時期に行われた、日本で唯一の全国的な識字調査で、「非識字率は約2%」という数値で報じられたことによります。ですが実はそれ以来、同規模の識字調査は一度も実施されていません。現代では実はどうなのでしょう。そもそも「識字」とは何なのか。日本に住む人たちの識字の実態を把握するには、いつ・どこで・誰が・誰を対象に・どのように調査をすればよいのか。多様な日本語使用者がいる現在の日本。その日本で「リテラシー」をどう考えるのか。基本となる書です。新しい学問分野「コミュニケーション共生科学」がつくるシリーズ[コミュニケーションの未来を創る]の2巻。シリーズ詳細はこちら <https://bungaku-report.com/language-science.html>



百人一首リサーチ

海野圭介、神作研一、ジョシュア・モストウ、ミシェル・ヴィエイヤール＝バロン編

ISBN978-4-86766-090-4 A5判・並製・352頁 定価：本体2,800円（税別）

第1部「どのように成立したのか」では、謎めいた成立事情を探り、第2部「百人一首が持つ〈ちから〉」は、さまざまな百人一首の受容に関して探ります。第3部「ビジュアル・カルチャー」は、絵入り絵本、浮世絵、漫画などに展開されてきたのかた百人一首について紹介。第4部「どのように翻訳してきたか」では、東西ヨーロッパにおける「百人一首翻訳史」をたどります。第5部「百人一首研究の手引」は研究史をたどり、現在にのこる主要本文を比較検討できるように、掲載しています。ここでは最新の研究についても学ぶことができます。

執筆は編者の海野圭介、神作研一、ジョシュア・モストウ、ミシェル・ヴィエイヤール＝バロンのほか、今西祐一郎、Orsolya Karolyi、木村孝太、小山順子、舘野文昭、Daniel Struve、寺田澄江、徳原茂実、村尾誠一、山下則子、吉海直人。



定番漢詩教材考

樋口敦士

ISBN978-4-86766-092-8 A5判・並製・344頁 定価：本体2,800円（税別）

漢詩は必ずしも中国由来のものばかりではなく、わが国の文学作品にも強く結びついている。では漢詩はどう日本で読まれてきたのか。そんな漢詩はどう教育のなかで教えられてきたのか。漢文教育の必要性をより客観的な観点から論じるための、読み歴史と教育の歴史がわかる。定番化した「漢詩」教材を取りあげ、その受容状況と教材的な観点を柱として論じる。日本における唐詩受容の変遷を、平安時代・五山時代・江戸時代・明治時代以降の諸書を通して詳細に俯瞰し、唐詩作品を教材的な観点から分析する。受容変遷については、精緻を極め、ときに戦争漢詩教材まで言及される。明治時代以降は平成、令和とつい最近のものまで視野に入る。王翰「涼州詞」、孟浩然「春暁」、王維「陽関三疊」、李白「白帝城」、崔顥「黃鶴樓」、杜甫「春望」、張継「楓橋夜泊」、白居易「香炉峰下」などの唐代名詩の受容状況と、教育の歴史がわかる本です。



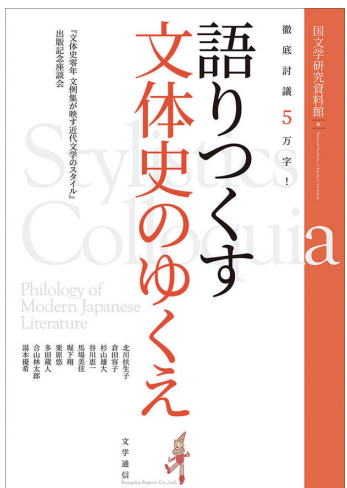
「お静かに！」の誕生

近代日本美術の鑑賞と批評

今村信隆

ISBN978-4-86766-093-5 四六判・並製・456頁 定価：本体2,700円（税別）

果たして、人々の声はどこへ行ったのだろうか。「沈黙」と「語らい」は歴史のなかでもせめぎ合う。芸術と出会う場所、美術館。「お静かに！」が生まれる空間で、鑑賞と批評の歴史を〈声〉や〈語らい〉から考える。書かれることばと比べると、声を伴って話されることばは、いかにも不安定で、はかなく、頼りない。近代的な鑑賞と批評はそれぞれ、声と語らいを外側へと追いやることで、自らの輪郭を定めていったのではないか。江戸から明治へと移り行く時期の「見世物」と「書画会・書画展会」の様子から、人々のあいだに線を引く近代的な博覧会、明治の演説文化に対する批評、雑誌『白樺』とその同人たちが求めた美術館の理想など、今日の鑑賞と批評の空間を再考する歴史的な事柄を取り上げ考える。明治期以降に次第に整えられていく鑑賞空間、批評空間はどのようなものだったのか。それは現在とどうつながっているのだろうか。私たちの空間と声のあり方を見つめるための本



徹底討議5万字！語りつくす文体史のゆくえ

『文体史零年 文例集が映す近代文学のスタイル』出版記念座談会

国文学研究資料館編

ISBN978-4-86766-094-2 A5判・並製・66頁 定価：本体500円（税別）

書き手の態度や依拠文法ごとの区分として捉えられてきた「文体」は、実証的かつ具体的な分析概念として鍛えなおされ、「文体」によるあらたな文学の研究方法がうちたてられようとしている。（多田蔵人）

『文体史零年 文例集が映す近代文学のスタイル』（令和7年3月31日、文学通信）の出版準備がととのいつつあった令和6年10月13日に、国文学研究資料館共同研究室にて行われた討議の記録。参加者（※所属は2024年10月時点）。北川扶生子（関西学院大学）、倉田容子（駒澤大学）、杉山雄大（二松学舎大学ほか）、谷川恵一（国文学研究資料館名誉教授）、馬場美佳（筑波大学）、堀下翔（筑波大学）、栗原悠（国文学研究資料館）、多田蔵人（国文学研究資料館）。誌上参加者＝合山林太郎（慶應義塾大学）、湯本優希（日本体育大学桜華中学校・高等学校、立教大学日本学研究所研究員）。



仲介する日本

ロシアから中国への文化横断とリレー翻訳

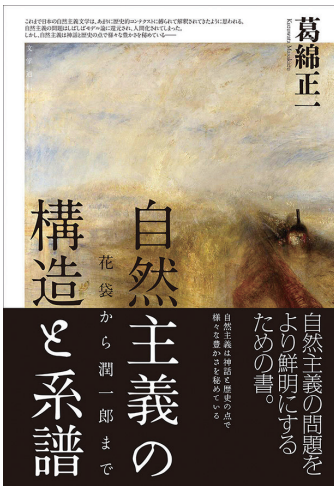
シャオルー・マー著 秋草俊一郎・今井亮一・高橋知之訳

ISBN978-4-86766-096-6 四六判・並製・368頁 定価：本体 3,600円（税別）

近代におけるロシア・日本・中国の文化的リレーを読み解く、世界文学研究の最前線！

19世紀後半から20世紀初頭にかけて、中国の文人たちは日本を仲介者としてロシア文学・文化を翻訳・受容し、それぞれの「モダニティ（近代）」を築いていったが、それはどのように行われていたのか。初めて包括的に解き明かす。

ロシアの恋愛小説、ニヒリズムやヒューマンズムといった思想は、日本語訳を経て中国に伝わる過程で、翻訳者はどのような課題や選択に直面したか。ロシア・日本・中国の文学的・文化的概念の変容を丹念に追う。3言語（ロシア語・日本語・中国語）の一次資料を駆使し、日中露の文学と文化の三角関係を立体的に描き出すことで、従来の「発信一受容」の二項対立を超えた、新たな文化横断のダイナミズムが提示される。



自然主義の構造と系譜

花袋から潤一郎まで

葛綿正一

ISBN978-4-86766-097-3 A5判・上製・504頁 定価：本体 13,000円（税別）

自然主義の問題をより鮮明にするための書。

これまで日本の自然主義文学は、あまりに歴史的コンテクストに縛られて解釈されてきたのではないが、自然主義の問題は時にはモデル論に還元され、人間化されてしまうに至っているのではないか——という問題意識のもと、自然主義を狭義の歴史主義から解き放ち、その可能性を考える。

神話と歴史の点で様々な豊かさを秘めた自然主義文学の言語の力を解き明かす。

第一部では田山花袋、島崎藤村、徳田秋声、泉鏡花をめぐって自然主義の物質的構造というべきものを浮き彫りにし、第二部では森鷗外、夏目漱石、志賀直哉、谷崎潤一郎をめぐって自然主義の批判的系譜を辿る。さまざまなテキストを横断しながら自然主義文学を考えていく。



早く逝きし俳人たち

「祈り」としての俳句

樽見博

ISBN978-4-86766-095-9 四六判・並製・304頁 定価：本体 2,700円（税別）

優れた才能を持ち、輝くような作品を残しても、人々の目に触れる資料がなければ、またその人と作品を伝える語り部がいなければ、時の流れに埋もれていってしまう——本書は「日本古書通信」を長年編集してきた著者が、膨大な数にのぼる俳句雑誌を通覧してきたなかで出会った、早世俳人たちの作品を、その初出誌にさかのぼり出来る限り紹介したものである。

「彼らの無念を晴らすべく、作品を見つけ出して後世に残してあげよう」と考えていた著者は、執筆しながらその認識を改める。「彼らは後世に名を残すために俳句を作り、あるいは評論や随筆を書いたのではない」。著者とともに振り返る、「早く逝きし俳人」たち。登場する俳人は、中西其十、田中青牛、大橋裸木、河本緑石、松本青志、和田久太郎、藤田源五郎、高橋鏡太郎、本島高弓、堀徹、鎌倉鶴丘、柏原鷹一郎など。



REKIHAKU 特集・性／生のルールを考える

国立歴史民俗博物館・樋浦郷子・中村耕作編（国立歴史民俗博物館発行）

ISBN978-4-86766-091-1 A5判・並製・112頁 定価：本体 1,091円（税別）

歴史が始まって以来、男性も女性もその体を持って生まれたただけなのに、みんなしんどい。それはみんな同じ「しんどい」ではなく、全員に個別なしんどさがあるのではないのでしょうか。性は多かれ少なかれ当時の社会の背景や特定の考えが入り込んで区分されてきたものです。だとすれば、時代それぞれの社会的な区分やその区分にもとづいて作られる性のルールのもとで、みないかにして生き抜いてきたのでしょうか。個別の悩み、受容、妥協やあきらめや闘いを、先史時代から現代まで見て、考えていきます。「女犯」をめぐる中世宗教と現代科学」「江戸時代の性と生 避妊と捨て子から問う」「月経をめぐる民俗 明治・大正・昭和」「女学生と登山」「衛生用品の世界史」といった論考を収録したほか、現在進行形で生理用品と向き合う、花王株式会社の「ロリエ」宣伝開発メンバーとの座談会「現代史としてのロリエ史」も掲載。



日本古典書誌学論 新訂版

佐々木孝浩

ISBN978-4-86766-088-1 A5判・並製・568頁 定価：本体3,200円（税別）

書誌学は、文学作品を読み解く上で何の役に立つのか。書誌学とは何か。古典を理解するには、それを保存する書物をも知る必要がある。書物との対話の方法を鮮やかに示し、第39回角川源義賞【文学研究部門】を受賞した、名著の新訂版。巻物や冊子といった書物の形態や装訂にはヒエラルキーがあり、作品内容の「格」と深く結びついている。漢字・片仮名・平仮名の使い分けと書物の製作にも相関性があり、それを見抜いた上で作品を読み解いていかなければならない。既存の文学研究では明らかにできなかった「読み」を示す、古くて新しい書誌学の具体的活用法！新訂版刊行にあたっては、初版を訂正したほか、書誌学用語・人名・作品名を中心にルビを多く振り、初学者にも配慮した作りになっています。



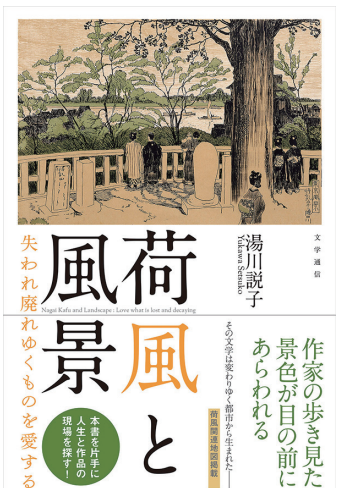
なつかしい近代文学

江戸を視野に入れて

西田耕三

ISBN978-4-86766-089-8 A5判・並製・416頁 定価：本体9,200円（税別）

なつかしいのは、根源的に、見定めようとしていた対象が次第に茫漠となり、やがて世界の中に消失してしまうからである。「世界」の側にいる私たちに、その現象が「なつかしい」と感じられるのだ——。近代になって多くの「江戸」は失われた。しかし、すべてが跡形もなくなかったわけではない。倫理や思想を巻き込んで展開する文学の場合、前代の思想や倫理が一気に消去されることはない。新来の西洋の思想や倫理と拮抗しながら生き続ける。本書は、江戸時代の思想や倫理と近代の文学のつながりを、トリヴィアルで断片的な事柄から解き、広い場に引き上げ、それらの特徴を確認したり、新たに見出したりしようとする。江戸思想はどう転位し、近代文学に流れ込んでいるのか。たとえば、太宰春台の時代には当たり前だった言葉は、賢治の時代には驚異に感じられたことなどである。



荷風と風景

失われ廃れゆくものを愛する

湯川説子

ISBN978-4-86766-087-4 四六判・並製・204頁 定価：本体2,400円（税別）

作家は廃れゆく失われつつある土地の記憶をたどろうとした。文豪・永井荷風が言葉で紡いだ江戸東京の風景を丹念に紐解くと、何が見えてくるのだろうか。作家の言葉と実際の場所を結びつけ、過ぎ去った時代の都市の姿の痕跡を探し、荷風の愛した風景を追いかける。本書は「地形を歩む」「水辺散策」「都会生活」の3部に分け、小石川金富町三十二番地（現・文京区春日二丁目）の生家から、孤高の岩であった自邸・偏奇館まで、永井荷風の人生と作品の現場を読み解いていく。荷風の歩き見た景色が目の前にあられ、作家が作品に遺した目まぐるしく変わりゆく時代を追体験する。年譜・荷風関連地図・図版40点以上を掲載！荷風とともに江戸東京の風景を探すためのガイドブック！



翻訳新論

日中の文字とことばの〈近さと遠さ〉を考える

小松靖彦・田中祐輔編著

ISBN978-4-86766-076-8 A5判・上製・368頁 定価：本体7,000円（税別）

日本と中国の翻訳から、新たな翻訳論を拓く——。Google翻訳、ChatGPT、DeepLなど、機械翻訳が生活の一部となった現代。しかし、「翻訳」とは本当に単なる言語の変換作業にとどまるのでしょうか。本書は、日中間における翻訳・翻案・アダプテーションの歴史と実践に焦点を当て、文学・宗教研究・言語学・日本語教育といった多様な視点から翻訳という営みを読み解く試みです。これまで西欧語を中心に構築されてきた翻訳理論が見落としてきたものに光をあて、同じ「文字」を共有する日中の文脈から新たな翻訳論の構築を目指します。翻訳研究に関心をもつ研究者・学生はもちろん、翻訳や多言語社会に関心をもつすべての読者におすすめの一冊。執筆は、小松靖彦、田中祐輔、片山宏行、陳継東、丁莉、陳力衛、鄒波、費曉東、吉田薫、梁青、鄒双双、宋啓超、李滿紅、西野入篤男。

その他の刊行図書 2026.04 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

書名・著者名	刊行年	ISBN	本体価格
東アジア文化講座・全4冊 [完結]			
はじめに交流ありき—東アジアの文学と異文化交流●染谷智幸編	2021年2月	978-4-909658-44-9	2800円
漢字を使った文化はどう広がっていたのか—東アジアの漢字漢文文化圏●金文京編	2021年2月	978-4-909658-45-6	2800円
東アジアに共有される文学世界—東アジアの文学圏●小峯和明編	2021年2月	978-4-909658-46-3	2800円
東アジアの自然観—東アジアの環境と風俗●ハルオ・シラネ編	2021年2月	978-4-909658-47-0	2800円
デジタル・ヒューマニティーズ関連書			
歴史情報学の教科書—歴史のデータが世界をひらく●後藤 真・橋本雄太編	2019年4月	978-4-909658-12-8	1900円
ネット文化資源の読み方・作り方—図書館・自治体・研究者必携ガイド●岡田一祐	2019年7月	978-4-909658-14-2	2400円
デジタル学術空間の作り方—仏教学から提起する次世代人文学のモデル●下田正弘・永崎研宣編	2019年12月	978-4-909658-19-7	2800円
欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識●人文情報学研究所監修	2021年7月	978-4-909658-58-6	2800円
人文学のためのテキストデータ構築入門 <small>TEIガイドラインに準拠した取り組みにおいて</small> ●人文情報学研究所監修	2022年8月	978-4-909658-84-5	3000円
デジタルストーリーを实践する <small>データとしてのテキストを扱うためのビギナーズガイド</small> ●ジョナサン・ブレイニーほか	2023年10月	978-4-86766-022-5	2700円
IIIF[トリプルアイエフ]で拓くデジタルアーカイブ コンテンツの可能性を世界につなぐ●一般財団法人人文情報学研究所(監修)	2024年7月	978-4-86766-057-7	3000円
国語教育関連書			
なぜ古典を勉強するのか—近代を古典で読み解くために●前田雅之	2018年6月	978-4-909658-00-5	3200円
国語の授業の作り方—はじめての授業マニュアル●古田尚行	2018年7月	978-4-909658-01-2	2700円
古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。●勝又基編	2019年9月	978-4-909658-16-6	1800円
古典教育と古典文学研究を架橋する—国語科教員の古文教材化の手順●井浪真吾	2020年3月	978-4-909658-26-5	2700円
高校に古典は本当に必要なのか—高校生が高校生のために考えたシンポジウムのまとめ●長谷川凜ほか	2021年5月	978-4-909658-36-4	1800円
古典教育をオーバーホールする—国語教育史研究と教材研究の視点から●菊野雅之	2022年9月	978-4-909658-87-6	2700円
文学授業のカンドコロ <small>迷える国語教師たちの物語</small> ●助川幸逸郎・幸坂健太郎・岡田真範・難波 博孝・山中勇夫	2022年7月	978-4-909658-80-7	1900円
# 卒論修論一口指南 ●田中草大	2022年6月	978-4-909658-78-4	1600円
未来を切り拓く古典教材 <small>和本・くずし字でこんな授業ができる</small> ●山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸編	2023年3月	978-4-86766-003-4	1900円
故事成語教材考●樋口敦士	2023年7月	978-4-86766-015-7	2800円
古典を学んでよかった!と思える探究型授業のつくりかた <small>【2次】 国語、読書、アクティブラーニング</small> ●日本文学アクティブラーニング研究会編	2025年3月	978-4-86766-083-6	2400円
定番漢詩教材考●樋口敦士	2025年6月	978-4-86766-092-8	2800円
文学・歴史・美術・思想・文化			
三島由紀夫は—〇代をどう生きたか—あの結末をもたらしたものに●西法太郎	2018年11月	978-4-909658-02-9	3200円
全訳 男色大鑑〈武士編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2018年12月	978-4-909658-03-6	1800円
全訳 男色大鑑〈歌舞伎若衆編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2019年10月	978-4-909658-04-3	1800円
紙が語る幕末出版史—『開版指針』から解き明かす●白戸 満喜子	2018年12月	978-4-909658-05-0	9500円
二代目市川團十郎の日記にみる享保期江戸歌舞伎●ビュールク トーヴェ	2019年2月	978-4-909658-09-8	6000円
江戸の子どもの絵本—三〇〇年前の読書世界にタイムトラベル!●叢の会編	2019年4月	978-4-909658-10-4	1000円
〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典●長島弘明編	2019年5月	978-4-909658-13-5	3200円
真山青果とは何者か?●飯倉洋一・日置貴之ほか編	2019年7月	978-4-909658-15-9	2800円
注釈・考証・読解の方法—国語国文学的思考●白石良夫	2019年11月	978-4-909658-17-3	3200円
草の根歴史学の未来をどう作るか—これからの地域史研究のために●黒田智・吉岡由哲編	2020年1月	978-4-909658-18-0	2700円

その他の刊行図書 2026.04 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

薩琉軍記論—架空の琉球侵略物語はなぜ必要とされたのか●目黒将史	2019年12月	978-4-909658-20-3	15000円
怪異をつくる—日本近世怪異文化史●木場貴俊	2020年3月	978-4-909658-22-7	2800円
江戸初期の香文化—香がつなく文化ネットワーク●堀口悟・鈴木健夫・村田真知子編	2020年2月	978-4-909658-23-4	4500円
近世前期江戸出版文化史●速水香織	2020年2月	978-4-909658-24-1	品切れ
江戸中期上方歌舞伎囃子方と音楽●前島美保	2020年2月	978-4-909658-25-8	12000円
「国文学」の批判的考察—江戸のテキストから古典を考え直す●空井伸一	2020年3月	978-4-909658-27-2	11500円
好古趣味の歴史—江戸東京からたどる●小林ふみ子・中丸宣明編著	2020年6月	978-4-909658-29-6	2800円
城壁●榛葉英治・和田敦彦	2020年6月	978-4-909658-30-2	2400円
信長徹底解説—ここまでわかった本当の姿●堀 新・井上泰至編	2020年7月	978-4-909658-31-9	2700円
杞憂に終わる連句入門●鈴木千恵子	2020年6月	978-4-909658-32-6	1500円
読書の歴史を問う—書物と読者の近代 改訂増補版●和田敦彦	2020年8月	978-4-909658-34-0	1900円
説話文学研究の最前線—説話文学会 55 周年記念・北京特別大会の記録●説話文学会編	2020年9月	978-4-909658-35-7	3000円
二十四節気で読みとく漢詩●古川末喜	2020年10月	978-4-909658-37-1	2800円
古典の未来学—Projecting Classicism ●荒木浩編	2020年10月	978-4-909658-39-5	8000円
書誌学入門ノベル! 書医あづさの手控〈クロニクル〉●白戸満喜子	2020年12月	978-4-909658-41-8	1800円
王朝物語の表現機構—解釈の自動化への抵抗●星山 健	2021年1月	978-4-909658-42-5	6000円
近代平仮名体系の成立—明治期読本と平仮名字体意識●岡田一祐	2021年2月	978-4-909658-48-7	7000円
虚学のすすめ—基礎学の言い分●白石良夫	2021年2月	978-4-909658-49-4	1900円
自由律俳句と詩人の俳句●樽見 博	2021年3月	978-4-909658-50-0	2700円
『阿昆達磨集論』の伝承—インドからチベットへ、そして過去から未来へ●高橋晃一・根本裕史編	2021年3月	978-4-909658-51-7	2400円
これからの古典の伝え方—西鶴『男色大鑑』から考える●畑中千晶	2021年3月	978-4-909658-53-1	1900円
軍記物語と合戦の心性●佐伯真一	2021年4月	978-4-909658-54-8	10000円
言いなりにならない江戸の百姓たち—「幸谷村酒井家文書」から読み解く●渡辺尚志	2021年6月	978-4-909658-56-2	品切れ
『奥の細道』の再構築●井口洋	2021年11月	978-4-909658-62-3	11000円
たたかう講談師—二代目松林伯円の幕末・明治●目時美穂	2021年11月	978-4-909658-66-1	2500円
読まなければなにもはじまらない—いまから古典を〈読む〉ために●木越治・丸井貴史編	2021年11月	978-4-909658-67-8	1900円
Butoh 入門 肉体を翻訳する ●大野ロベルト・相原朋枝編	2021年12月	978-4-909658-68-5	2200円
無数のひとりが紡ぐ歴史—日記文化から近現代日本を照射する ●田中祐介編	2022年3月	978-4-909658-75-3	2800円
未墾地に入植した満蒙開拓団長の記録—堀忠雄「五福堂開拓団十年記」を読む ●黒澤 勉・小松靖彦編	2022年3月	978-4-909658-71-5	2400円
地域歴史文化継承ガイドブック—付・全国資料ネット総覧 ●天野真志・後藤 真編	2022年3月	978-4-909658-72-2	1600円
日本学の教科書 Handbook for Japanese Studies ●伴野文亮・茂木謙之介編	2022年4月	978-4-909658-73-9	1800円
職業としての大学人 ●紅野謙介	2022年4月	978-4-909658-77-7	1800円
「文壇」は作られた—川端康成と伊藤整からたどる日本近現代文学史 ●尾形大	2022年4月	978-4-909658-74-6	2000円
思い出のとしまえん ●練馬区立石神井公園ふるさと文化館編 小宮佐知子・内田 弘・小林 克著	2022年5月	978-4-909658-76-0	1900円
職業作家の生活と出版環境—日記資料から研究方法を拓く●和田敦彦編	2022年6月	978-4-909658-82-1	2700円
# 卒論修論—口指南 ●田中草大	2022年6月	978-4-909658-78-4	1600円
俳句がよくわかる文法講座 詠む・読むためのヒント●井上泰至・堀切克洋編	2022年8月	978-4-909658-79-1	1900円
人はなぜ神話〈ミュトス〉を語るのか—拡大する世界と〈地〉の物語 ●清川 祥恵・南郷晃子・植朗子編	2022年9月	978-4-909658-85-2	2800円

その他の刊行図書 2026.04 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

江戸幕府の誕生 一関ヶ原合戦後の国家戦略 ●渡邊大門編	2022年9月	978-4-909658-86-9	1900円
増補新版 東北の古本屋 ●折付桂子	2022年10月	978-4-909658-88-3	1800円
川瀬巴水探索—無名なる風景の痕跡をさがす ●川瀬巴水とその時代を知る会	2022年11月	978-4-909658-90-6	1900円
〈転生〉する川端康成 I 引用・オマージュの諸相 ●仁平政人・原善編	2022年12月	978-4-909658-89-0	2700円
学芸員の観察日記 ミュージアムのうらがわ ●滝登くらげ	2023年2月	978-4-909658-93-7	1600円
家康徹底解説 ここまでわかった本当の姿 ●堀 新・井上泰至編	2023年2月	978-4-909658-95-1	2700円
おもろさうし選詳解 ●島村幸一	2023年2月	978-4-909658-97-5	10000円
児童雑誌の誕生 ●柿本真代	2023年2月	978-4-86766-001-0	2800円
燈謎 (とうめい) 漢字文化圏文字遊戯の諸相 ●呉 修喆	2023年2月	978-4-909658-94-4	6000円
西鶴『誹諧独吟一日千句』研究と註解 ●中嶋 隆	2023年2月	978-4-909658-98-2	6000円
源氏物語夢見論 ●笹生美貴子	2023年3月	978-4-909658-99-9	7000円
古文書の科学 料紙を複眼的に分析する ●渋谷綾子・天野真志編	2023年3月	978-4-86766-004-1	1900円
未来を切り拓く古典教材 <small>和本・くずし字でこんな授業ができる ●同志社大学古典教材開発研究センター・山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸編</small>	2023年3月	978-4-86766-003-4	1900円
土偶を読むを読む ●望月昭秀編	2023年4月	978-4-86766-006-5	2000円
東アジアの都市とジェンダー 過去から問い直す ●小林ふみ子・染谷智幸編	2023年4月	978-4-86766-005-8	2800円
江戸の絵本読解マニュアル 子どもから大人まで楽しんだ草双紙の読み方 ●叢の会編	2023年4月	978-4-86766-007-2	2100円
和学知辺草【翻刻・注釈・現代語訳】 ●中尾友香梨・白石良夫・中尾健一郎・村上義明編 <small>小城鍋島文庫研究会校注</small>	2023年4月	978-4-86766-002-7	6000円
石牟礼道子と〈古典〉の水脈 他者の声が響く ●野田研一・後藤隆基・山田悠介編	2023年5月	978-4-86766-008-9	2800円
伝統芸能の教科書 ●藤澤茜編著	2023年5月	978-4-86766-010-2	1900円
東アジアにおける笑話 ●佐伯孝弘・荒尾禎秀・島田大助・川上陽介・王 國良・崔 溶澈	2023年5月	978-4-86766-009-6	3200円
西鶴奇談研究 ●梁誠允	2023年5月	978-4-86766-012-6	5800円
詩のかたち・詩のころ—中世日本漢文学研究—【補訂版】 ●堀川貴司	2023年5月	978-4-86766-011-9	10000円
日本史のなかの中世日光山 忘れられた全盛時代 ●永井 晋	2023年8月	978-4-86766-017-1	2000円
文士村散策 新宿・大久保いまむかし ●茅原 健	2023年8月	978-4-86766-016-4	2200円
村上春樹研究 サンプリング、翻訳、アダプテーション、批評、研究の世界文学 ●横道 誠	2023年9月	978-4-86766-018-8	3000円
なんで日本研究するの? ●シュミット堀佐知編	2023年10月	978-4-86766-019-5	2400円
百年前の野球交流 インディアナ大学 vs 早稲田大学 ●錦 仁	2023年11月	978-4-86766-024-9	2800円
彰義隊、敗れて末のたいこもち 明治の名物幫間、松廼家露八の生涯 ●目時美穂	2023年11月	978-4-86766-020-1	2500円
和本図譜 江戸を究める ●日本近世文学会編	2023年11月	978-4-86766-025-6	1900円
なぜ古い本を網羅的に調べる必要があるのか <small>漢籍デジタル化公開と中国古典小説研究の展開 ● U-PARL・荒木 達雄編</small>	2023年12月	978-4-909658-64-7	2000円
西鶴解析 ●井口 洋	2023年12月	978-4-86766-013-3	6000円
文化権力と日本の近代 伝統と正統性、その創造と統制・隠滅 ●徐禎完・鈴木彰	2023年12月	978-4-86766-027-0	2800円
予言獣大図鑑 ●長野栄俊編・岩間理紀・笹方政紀・峰守ひろかず著	2023年12月	978-4-86766-026-3	2200円
金原明善 日本の〈偉人〉を捉えなおす ●伴野文亮・渡辺尚志編	2023年12月	978-4-86766-028-7	2000円
特撮に見えたる妖怪 ●式水下流	2024年2月	978-4-86766-033-1	2000円
琉球文学の展望 ●島村幸一	2024年2月	978-4-86766-034-8	8000円
文明論と伝記の近代 明治前半期の歴史と文学 ●吉岡 亮	2024年2月	978-4-86766-031-7	6000円
幕末の社会変革と文芸 菊池・大橋家の文人たちの歩みを追って ●佐藤 温	2024年2月	978-4-86766-036-2	6500円

その他の刊行図書 2026.04 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧ください

東アジア的世界分析の方法 〈術数文化〉の可能性●水口幹記編	2024年2月	978-4-86766-029-4	3500円
研究者、魚醬と出会う。 山形の離島・飛島塩辛を追って●白石哲也・松本 剛・奥野貴士編	2024年3月	978-4-86766-037-9	1900円
地域歴史文化のまもりかた 災害時の救済方法とその考え方●天野真志・松下正和編	2024年3月	978-4-86766-043-0	1800円
武者小路実篤文学の構造と同時代状況●瀧田 浩	2024年3月	978-4-86766-032-4	4000円
〈転生〉する川端康成Ⅱ アダプテーションの諸相●仁平政人・原善編	2024年3月	978-4-86766-040-9	3500円
デジタル時代の児童の読解力 紙とデジタル比較読解調査からみえること●難波博孝編	2024年3月	978-4-86766-039-3	1500円
唐物の神能における唐土 『東方朔』『西王母』『菊慈童』『鶴亀』をめぐって●リム・ベンチャー著 青山学院大学文学部日本文学科編	2024年3月	978-4-86766-038-6	700円
江戸の王朝文化復興 ホノルル美術館所蔵レイン文庫『十番虫絵巻』を読む●盛田帝子／ロバート・ヒューイ編	2024年3月	978-4-86766-041-6	2800円
古典の再生●盛田帝子編	2024年3月	978-4-86766-042-3	2800円
ミュージアムと生きていく●大澤夏美	2024年5月	978-4-86766-048-5	1800円
中間小説とは何だったのか 戦後の小説雑誌と読者から問う●小嶋洋輔・高橋孝次・西田一豊・牧野悠	2024年5月	978-4-86766-051-5	3200円
五山文学探究 資料と論考●堀川貴司	2024年5月	978-4-86766-053-9	10000円
源氏物語の戦略 引用と反復●高橋早苗	2024年5月	978-4-86766-046-1	5500円
麻雀漫画 50 年史●V 林田	2024年6月	978-4-86766-049-2	2400円
戦乱で躍動する日本中世の古典学●前田雅之	2024年7月	978-4-86766-047-8	12500円
役者絵の図像学 錦絵八犬伝を読む●岩田秀行・小池章太郎	2024年7月	978-4-86766-050-8	5000円
説話文学研究の海図 説話文学会六〇周年記念論集●説話文学会編	2024年7月	978-4-86766-056-0	3200円
江戸の怪談 近世怪異文芸論考●近藤瑞木	2024年9月	978-4-86766-052-2	2800円
開講！木彫り熊概論 歴史と文化を旅する●北海道大学大学院文学院 文化多様性論講座 博物館学研究室・田村実咲編	2024年9月	978-4-86766-054-6	2200円
なぜ少年は聖剣を手にし、死神は歌い踊るのか ポップカルチャーと神話を読み解く 17 の方法●神戸神話・神話学研究会他編	2024年10月	978-4-86766-066-9	1900円
終わっていない、逃れられない 〈当事者たち〉の震災俳句と短歌を読む●加島正浩	2024年10月	978-4-86766-060-7	1900円
戦前期週刊誌の文学と視覚表象 『サンデー毎日』の表現戦略●荒井真理亜・副田賢二・富永真樹・中村健編	2024年11月	978-4-86766-068-3	4500円
19 世紀日本における服従と反抗 山形県庄内地方の四つの集団抗議●ウィリアム・W・ケリー	2024年11月	978-4-86766-067-6	1700円
「お静かに！」の文化史 ミュージアムの声と沈黙をめぐって●今村信隆	2024年12月	978-4-86766-070-6	1900円
ウィキペディアタウン・ハンドブック 図書館・自治体・まちおこし関係者必携●青木和人	2024年12月	978-4-86766-069-0	1800円
怪異から妖怪へ●東アジア怪異学会編	2024年12月	978-4-86766-069-0	1700円
太平洋を越える 〈新しい女〉 田村俊子とジェンダー・人種・階級●呉 佩珍	2024年12月	978-4-86766-073-7	3500円
王朝物語における居住空間 物語の登場人物と住まい●天野ひろみ	2025年2月	978-4-86766-075-1	4800円
見立てと女語りの日本近代文学 斎藤緑雨と太宰治を読む●齋藤樹里	2025年2月	978-4-86766-077-5	3800円
中世神仏の文芸と儀礼●有賀夏紀	2025年2月	978-4-86766-078-2	6000円
『源氏物語』全巻をポーランド語に訳す●イヴォナ・コルディンスカ＝ナヴロツカ著 青山学院大学文学部日本文学科編	2025年3月	978-4-86766-081-2	800円
ナラティブの被害学●阿部幸大	2025年4月	978-4-86766-071-3	2200円
文体史零年 文例集が映す近代文学のスタイル●国文学研究資料館編	2025年4月	978-4-86766-079-9	4000円
小城鍋島文庫の古典籍たち 書物は語る●中尾友香梨・白石良夫・二宮愛理編	2025年4月	978-4-86766-085-0	4500円
人文学を社会に開くには。 パブリックヒューマニティーズから考え・行動する●菊池信彦編	2025年4月	978-4-86766-086-7	3000円
古典を学んでよかった！と思える探究型授業のつくりかた「文学」「国語」のためのアクティブラーニング●日本文学アクティブラーニング研究会編	2025年4月	978-4-86766-083-6	2400円
翻訳新論 日中の文字とことばの〈近さと遠さ〉を考える●小松靖彦・田中祐輔編著	2025年5月	978-4-86766-076-8	7000円
定番漢詩教材考●樋口敦士	2025年6月	978-4-86766-092-8	2800円

その他の刊行図書 2026.04 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

なつかしい近代文学 江戸を視野に入れて●西田耕三	2025年6月	978-4-86766-089-8	9200円
荷風と風景 失われ廃れゆくものを愛する●湯川説子	2025年6月	978-4-86766-087-4	2400円
百人一首りサーチ●海野圭介、神作研一、ジョシュア・モストウ、ミシェル・ヴィエイヤール＝パロン編	2025年6月	978-4-86766-090-4	2800円
日本古典書誌学論 新訂版●佐々木孝浩	2025年6月	978-4-86766-088-1	3200円
「お静かに！」の誕生 近代日本美術の鑑賞と批評●今村信隆	2025年7月	978-4-86766-093-5	2700円
早く逝きし俳人たち 「祈り」としての俳句●樽見 博	2025年8月	978-4-86766-095-9	2700円
仲介する日本 ロシアから中国への文化横断とリレー翻訳●シャオルー・マー著 秋草俊一郎・今井亮一・高橋知之訳	2025年9月	978-4-86766-096-6	3600円
自然主義の構造と系譜 花袋から潤一郎まで●葛綿正一	2025年9月	978-4-86766-097-3	13000円
君につながる古典教室●佐藤 透	2025年11月	978-4-86766-113-0	2200円
いま、なぜサブジェクト・ライブラリアンなのか 図書館をめぐる知の変革のために●U-PARL・中尾道子編	2025年11月	978-4-86766-098-0	2500円
「もののあはれ」の訳し方 翻訳からたどる古典文学●大野ロベルト	2026年1月	978-4-86766-099-7	2300円
共古・山中笑の忘れ残りの記 キリスト教と民俗学のあわいを生きる●目時美穂	2026年1月	978-4-86766-115-4	2700円
震災演劇を未来につなぐ 〈3.11〉をめぐる表現の記録／記憶●後藤隆基	2026年1月	978-4-86766-114-7	3600円
徹底討議5万字！語りつくす文体史のゆくえ『文体史零年 文例集が映す近代文学のスタイル』出版記念座談会●国文学研究資料館編	2026年1月	978-4-86766-094-2	500円
なぜ古典を学ぶのか●山藤夏郎	2026年1月	978-4-86766-100-0	12500円
異文化交流文学史 16世紀前後の日本と東アジア●小峯和明編	2026年2月	978-4-86766-117-8	13000円
坂口安吾・野生の文体 [ワイルド・スタイル] ●徳本善彦	2026年2月	978-4-86766-116-1	5000円
文学散歩の研究●岡野裕行	2026年2月	978-4-86766-124-6	2400円
鯉絵と歌川派の浮世絵 安政江戸地震と幕末の出版界●石隈聡美	2026年3月	978-4-86766-125-3	7500円
韓国古典艶笑説話集『紀伊斎常談』 現代日本語訳・解説・注釈・影印●染谷智幸・松本真輔・山田恭子 [編]	2026年3月	978-4-86766-118-5	5000円
歌う日本語♪ 歌謡曲の言語と文学●田窪行則編	2026年4月	978-4-86766-123-9	2400円
新解明・徳川家康の時代●平野明夫編	2026年4月	978-4-86766-121-5	7500円
創作と研究の対話 大学教育の現場から 武蔵野大学文学部創設60周年記念シンポジウムの記録●武蔵野大学文学部日本文学文化学科編	2026年4月	978-4-86766-122-2	1000円
増訂新版 正宗敦夫の世界 階上階下すべて書にして●吉崎志保子著・小川剛生 [編集・増補修訂]	2026年5月	978-4-86766-126-0	4800円

日本史史料研究会ボックス

新徴組の真実にせまる—最後の組士が証言する清河八郎・浪士組・新選組・新徴組●西脇 康	2018年12月	978-4-909658-06-7	1300円
新 神風と悪党の世紀—神国日本の舞台裏●海津 一郎	2019年1月	978-4-909658-07-4	1200円
六波羅探題 研究の軌跡—研究史ハンドブック●久保田和彦	2020年1月	978-4-909658-21-0	1200円
ここまでわかった戦国時代の天皇と公家衆たち—天皇制度は存亡の危機だったのか？新装版●神田裕理編	2020年7月	978-4-909658-33-3	1350円
戦国時代と一向一揆●竹間芳明	2021年6月	978-4-909658-55-5	1600円
幕末大江戸のおまわりさん—史料が語る新徴組●西脇 康	2021年10月	978-4-909658-65-4	1500円
論考 日本中世史—武士たちの行動・武士たちの思想●細川重男	2022年3月	978-4-909658-70-8	1800円

REKIHAKU・国立歴史民俗博物館発行

REKIHAKU 特集・されど歴史●山田慎也・内田順子・橋本雄太編	2020年10月	978-4-909658-38-8	1091円
REKIHAKU 特集・いまこそ、東アジア交流史●高田貫太・橋本雄太編	2021年2月	978-4-909658-43-2	1091円
REKIHAKU 特集・日記がひらく歴史のトビラ●三上喜孝・内田順子編	2021年6月	978-4-909658-57-9	1091円
REKIHAKU 特集・歴史のなかの疫病●福岡万里子・高田貫太編	2021年10月	978-4-909658-63-0	1091円
REKIHAKU 特集・ファッション×博物館●澤田和人編・吉村郊子編	2022年2月	978-4-909658-69-2	1091円

その他の刊行図書 2026.04 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [https://bungaku-report.com/]、もしくは検索してご覧下さい

REKIHAKU 特集・人工知能の現代史●橋本雄太・澤田和人編	2022年6月	978-4-909658-81-4	1091円
REKIHAKU 特集・歴史の「匂い」●小倉慈司・高田貫太編	2022年10月	978-4-909658-91-3	1091円
REKIHAKU 特集・アートがひらく地域文化●川村清志・天野真志編	2023年2月	978-4-909658-96-8	1091円
REKIHAKU 特集・推定不能 炭素 14 研究がとらえた未知の巨大太陽フレアの謎●箱崎真隆・橋本雄太編	2023年6月	978-4-86766-014-0	1091円
REKIHAKU 特集・歴史をつなぐ●天野真志・吉村郊子編	2023年10月	978-4-86766-023-2	1091円
REKIHAKU 特集・顔・身体をもつ道具たち●中村耕作・川村清志編	2024年2月	978-4-86766-030-0	1091円
REKIHAKU 特集・蔵書をヒラク●工藤航平・箱崎真隆編	2024年6月	978-4-86766-055-3	1091円
REKIHAKU 特集・カメラ越しの世界●川村清志・樋浦郷子編	2024年10月	978-4-86766-059-1	1091円
REKIHAKU 特集・3D からみえる研究●上野祥史・松田睦彦編	2025年2月	978-4-86766-074-7	1091円
REKIHAKU 特集・性／生のルールを考える●樋浦郷子・中村耕作編	2025年6月	978-4-86766-091-1	1091円
REKIHAKU 特集・海藻 東アジアをつなぐ海の資源●松田睦彦・山下優介編	2025年10月	978-4-86766-111-6	1091円
REKIHAKU 特集・近代展示をひらく 第5展示室（近代）リニューアル●佐川享平・工藤航平編	2026年3月	978-4-86766-119-2	1091円

地方史はおもしろい・地方史研究協議会編

日本の歴史を解きほぐす―地域資料からの探求●地方史研究協議会編	2020年4月	978-4-909658-28-9	1500円
日本の歴史を原点から探る―地域資料との出会い●地方史研究協議会編	2020年10月	978-4-909658-40-1	1500円
日本の歴史を問いかける―山形県〈庄内〉からの挑戦●地方史研究協議会編	2021年3月	978-4-909658-52-4	1500円
日本の歴史を描き直す―信越地域の歴史像●地方史研究協議会編	2021年9月	978-4-909658-61-6	1500円
日本の歴史を突き詰める おおさかの歴史●地方史研究協議会編	2022年12月	978-4-909658-92-0	1500円
徳島から探求する日本の歴史●地方史研究協議会編	2023年11月	978-4-86766-021-8	1500円
だから地方史研究はやめられない●地方史研究協議会編	2025年4月	978-4-86766-082-9	1650円
ここまでわかった京都の歴史●地方史研究協議会編	2025年10月	978-4-86766-112-3	1650円

玉藻前アンソロジー [全3巻]

玉藻前アンソロジー 殺之巻●朝里 樹編著	2021年7月	978-4-909658-59-3	1900円
玉藻前アンソロジー 生之巻●朝里 樹編著	2022年10月	978-4-909658-83-8	1900円
玉藻前アンソロジー 石之巻●朝里 樹編著			近刊

歌舞伎 研究と批評 [68号から取り扱い開始しました]

歌舞伎 研究と批評 68 特集・歌舞伎と近現代演劇●歌舞伎学会編	2024年2月	978-4-86766-035-5	2330円
歌舞伎 研究と批評 69 特集・古浄瑠璃とその周辺●歌舞伎学会編	2024年10月	978-4-86766-058-4	2330円
歌舞伎 研究と批評 70 特集・『東海道四谷怪談』の二百年●歌舞伎学会編	2026年3月	978-4-86766-120-8	2330円

読んで、感じて! 古典みゅーじあむ [全5巻]

読んで、感じて! 古典みゅーじあむ 第1巻 くらし	2024年12月	978-4-86766061-4	1500円
読んで、感じて! 古典みゅーじあむ 第2巻 たべもの	2024年12月	978-4-86766062-1	1500円
読んで、感じて! 古典みゅーじあむ 第3巻 どうぶつ	2024年12月	978-4-86766063-8	1500円
読んで、感じて! 古典みゅーじあむ 第4巻 ことば	2024年12月	978-4-86766064-5	1500円
読んで、感じて! 古典みゅーじあむ 第5巻 もののけ	2024年12月	978-4-86766065-2	1500円

コミュニケーションの未来を創る [全10巻]

①やさしい社会をみんなで創るために コミュニケーション共生科学への誘い●菊澤律子・小磯花絵・朝日祥之	2025年7月	978-4-86766-101-7	1300円
②日本の識字率はほんとうに高いのか? 「当たり前」を問い直すために●野山広・朝日祥之・横山詔一・竹本直也	2026年2月	978-4-86766-102-4	1300円

③飛行機をめぐるコミュニケーション <small>だれにとっても心地よい公共スペースを考える ●北村伊都子・広瀬浩二郎・相良啓子・綾屋紗月・菊澤律子</small>	2026年5月	978-4-86766-103-1	1300円
その他			
中華オタク用語辞典●はちこ	2019年3月	978-4-909658-08-1	1800円
【呉公藻・馬岳梁版】太極拳講義●沈 剛・日高崇編著	2021年8月	978-4-909658-60-9	1300円
波多野華涯書簡集—門人濱口梧洞との往復書簡●岩田秀行・小田切マリ [私家版]	2019年3月	978-4-909658-11-1	品切れ

文学通信

こてん みゆーじあむ

古典

シリーズ全5冊一挙刊行!

根来麻子 甲南女子大学文学部准教授

読んで、感じて!

古典の面白いエピソードを
やさしく、わかりやすく
紹介するよ!

過去にタイムスリップして
昔の世界を楽しもう!

読んで、感じて!

第1巻
くらし

第2巻
たべもの

第3巻
どうぶつ

第4巻
ことば

第5巻
もののけ

◎各巻、1,650円(税込) 四六判・並製・カバー装・136頁

推薦

探してごらん。
古典は、いつも、
君のそばにあるよ。

渡部泰明
国文学研究資料館館長

1話2分で朝読にぴったり!

小学校高学年〜大人まで

研究室で初學者の学生に!

【シリーズ特色】

古典の面白いエピソードをやさしく、わかりやすく紹介します。「くらし編」「たべもの編」「どうぶつ編」「ことば編」「もののけ編」という全5冊シリーズ! 全240話! ①古典のエピソードを全12章(各4話)で紹介。どこから読んでもOK! ②学校で習う作品から、少しマイナーな作品まで、幅広い古典作品を収録! ③各エピソードにある「声に出して読んでみよう」で原文の音読に挑戦! ④収録作品の読書案内&年表つき!

古典文学を、もっと身近に、もっと気軽に楽しんでほしい—

●根来麻子 [甲南女子大学文学部准教授]

「古典文学を、もっと身近に、もっと気軽に楽しんでほしい」。そんな想いから、本シリーズは生まれました。「くらし編」「たべもの編」「どうぶつ編」「ことば編」「もののけ編」という五冊シリーズです。それぞれのテーマにそったエピソードを集めていますので、どこから読んでもOKです。もくじを見て、気になるタイトルのページを、まずは開いてみてください。もちろん、前から順番に読み進めても楽しめます。本シリーズでは、学校で習う有名な作品だけでなく、ちょっとマイナーだけれど、面白いエピソードがたくさん収録されている作品も取り上げました。また、狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎・落語など、伝統芸能の演目として有名な作品も取り上げています。ひとくちに「古典」といっても、作られた時代やジャンルは、本当にさまざまです。みやびやかな物語もあれば、いさましい戦いのエピソードもあり、笑い話やこわい話もあります。本シリーズを読んで、ぜひ、自分の好きな作品を見つけてください。

エピソードの最後には、「声に出して読んでみよう」として、古典の原文を載せています。古典の文章は、目で読むだけでなく、実際に声に出して読んでみることで、独特のリズムやことばの雰囲気味わうことができますので、ぜひ、チャレンジしてみてくださいね。

各編の章末には、「読書案内」として、主に原文・現代語訳・注釈が載っている書籍を載せました。各章で紹介したエピソードをもっとじっくり読みたいという方は、こちらを参照してください。また、巻末には「年表」を付け、本シリーズで取り上げた全作品が、それぞれどの時代のものなのか、時系列で分かるようにしました。「読書案内」と「年表」は、学校の授業などにもお役に立てると思います。

本文の小学校高学年以上で習う漢字には、ふりがなを付けています。小・中学生から、古典が好きな高校生・大学生、また、「もう一度、古典を読みたい」という社会人の皆さんまで、幅広く多くの方に手に取っていただけることを願っています。

特設サイト

